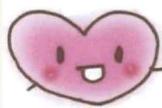


第113号

舞岡地区連合・社協だより

マスコット
「ころん」

とつかハートプラン *戸塚区地域福祉保健計画*

以前に『とつかハートプラン』の【区計画】【地区別計画】を紹介しました。舞岡地区は～日ごろの声かけ 地域の安心～を念頭に「住んでよかった！みんなが思えるふれあいのまち」を目指して様々な取り組みを行ってきました。長く継続している活動に加え、地区内の社会福祉施設や交番にもネットワークを広げ、より活動を充実させるなど、新たな取り組みも始めました。現在第4期『とつかハートプラン』(令和3年度～7年度)について計画中。

①新たに取り組んだこと 第3期計画(平成28～32年度)

- 「救急安心カード」を地区内の全世帯に配布(ハートプラン支援事業)
- 地区内の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設と「消防応援協力覚書」を締結
- 地区内の特別養護老人ホームの車両により、「舞フレンド」参加者の送迎を開始
- 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設が地域に開かれたまつりを開催、障害者施設が地域食堂を始めるなど交流が広がった。

②長く継続されている主な活動

- **舞クラス**……だれもが生まれ育った地域で安心して暮らせる事をめざし、講演会や行事を通じて、個別支援学級の児童生徒の保護者や地域の人をつなげる活動です。
- **舞フレンド**……南舞岡地区内の住民主体で、毎週水曜のミニデイサービスです。高齢者だけでなく小学生も定期的に参加しています。
- **かすみ草の会**……一人暮らしで75歳以上の方が、手作りの昼食と講座やレクリエーションを楽しむ会です。

舞岡台VSS(ボランティア シルバーサービス)の活動

舞岡台ボランティア シルバーサービス(略称VSS)は、住民の要望から始まったグループで自治会福利厚生部の下部組織として、超高齢化時代に対処するため、高齢者の“支え合い・助け合い”を目的とする活動を続けてまいりました。会員99名

1、地域ボランティア活動

活動は、病院への送迎・庭木の手入れ・ゴミ出し・買い物・民児協の調査資料などに取り組みました。病院への送迎は利用度が高く喜ばれましたが、交通法が変わり出来なくなりました。この十年は、草木部門を中心に、空家の庭管理や空地の草取りなど広範囲な活動を展開しています。

過去5年間の依頼件数

	草木依頼件数	活動延人数
2016年	41件	341人
2017年	39	321
2018年	49	370
2019年	69	440
2020年	37	268

(2020年は12月現在)

2、とつかハートプラン

- ①歩こう会：毎月1回第3月曜日、距離約8km
徒步約2時間程度、参加者20～30名
- ②音楽サロン：毎月最終木曜日15時～ 地区センターで歌唱、抒情歌を中心に行進、独唱も。男女声合唱で夏まつり他にも出演。参加者20～30名
- ③VSSシアター：隔月月曜日10時～ 自治会館で懐かしの邦画と洋画を交互に上映。参加者20～30名

舞岡台VSS 代表 野口 稔



地域貢献と余生

私は本年83歳を迎えました。20数年間、地域・区・市との多くの役職をまつとうしてまいりました。これも多くの皆様のご協力があったからと感謝致しております。

舞岡第二高寿会々長を26年、舞岡地区老人クラブ連合会々長を10年努めてまいりました。また、平成24年横浜環境行動賞、令和2年には15年勤続表彰と2度受けることが出来ました。今後は第一線を退き健康第一で皆様の模範となるよう、また羨望的となるような日々を送りたいと思います。



舞岡老人クラブ連合会長 細井 勇三(第二町内会)

かがやきクラブ(老人クラブ連合)

高齢者が老人クラブ活動を通じて、社会参加の機会を得て、健康で生きがいのある日常を実現できるよう取組をしています。

横浜市老人クラブ連合会は2016年から『かがやきクラブ』という愛称でスポーツや文化活動、健康づくりや友愛活動、奉仕活動など、年間を通じて様々な活動を行っています。

「かがやきクラブ横浜」(横浜市老人クラブ連合)では、全市的な行事としてスポーツや囲碁・将棋カラオケなどの各種大会を開催、戸塚区独自のシニア大学や研修会も実施しています。

また、各地区で行っている友愛活動を支援していくために講習会や事例集の発行をしています。

認知症サポーター養成講座

みなさまは、『オレンジリング』をご存知ですか。「オレンジリング」は認知症サポーター養成講座を受講された方にお渡ししています。

人は誰しも尊厳をもって最後まで自分らしくありたいと願っています。この願いをはばみ深刻な問題になっているのが認知症です。

横浜市の65歳以上の人口は、約92万人となり全人口の約24%(4人に1人)となります。今後も続く高齢化と要介護・要支援の認定者の約2人に1人が認知症という現状から更に増加が予測されます。

厚生労働省は認知症に対する偏見や誤解を無くし、認知症になっても安心して地域で暮らせるよう2005年から「認知症を知り地域をつくる10カ年のキャンペーン」を始めました。これは地域で暮らす認知症の人や家族を見守る応援者として『認知症サポーターキャラバン』事業があります。

横浜市の取り組みは、地域の住民、小・中学校の児童・生徒、金融機関、商店など様々な方に「認知症サポーター」になっていただき2013年には10万人を突破しました。

講座では身近な問題を寸劇で表し、認知症と思われる人にどの様に接することが望ましいか受講者で話し合ったりします。

「認知症になったら何も分からんでしょう?」と。それは誤りです。特に初期は少しづつ分からなくなっている自分に気付き、戸惑い、不安になっています。「認知症サポーター養成講座」を多くの方に受講していただき、地域にサポーターの輪を広げ理解と接し方、ご家族へのサポートの方法を学んでいただけたらと思います。

受講後は『オレンジリング』を付け「これは何?」と聞かれたら講座で学んだことを伝え、地域で認知症サポーターの輪を広げていきましょう。(参考資料:認知症サポーター養成講座教材)



民生委員児童委員 阪本 尚恵(南舞岡)

この広報紙作成の一部として『赤い羽根共同募金』の配布金が使われています